



技術の担い手

女性技術者編

岡本結子さんは、入省9年目。土木の面白さや、社会インフラの重要性を再確認していると語る。同時に、女性が土木業界で活躍できる環境を推進したいという思いも芽生え「矢部川女性技術者の会」を設立。土木とアートを融合させた企画を展開し、多くの人々に建設業の魅力を発信している。岡本さんの仕事への思いを伺う。

● 技術職を選んだきっかけ

この職業に入るきっかけは、大学で行われた国土交通省の説明会です。同じ学科を卒業した先輩から話を聞きました。その先輩は女性でしたが、土木分野で活躍しており、「土木工事＝男性」のイメージを抱いていた私は驚きと同時に、女性にも活躍の場がある、と意識が変わりました。

● 現場の魅力や責務

国の仕事は県や市と比較して大規模な工事が多いことは大きな魅力です。次世代に受け継ぐ重要な役割を果たしています。また、新技術に触れる機会も多い。人手不足が問題視される中、現場の状況等により従来の方法を採用することもありますが、施工性向上のため、新技術の積極的な活用にも力を入れています。

私たちの責務には技術や知識を常にアップデートし、より品質の良いものを生み出すことが含まれています。施工性ばかりを追いかけると品質や技術力の低下、ひいては施工者のモチベーションの低下につながりかねない。効率を挙げることを意識しつつも、品質や耐久性の高い構造物施工を追求することも大切だと考えます。

● 仕事のこだわりやポリシー

入省したころは、目の前の仕事をこなすことに必死で、「わからない」と伝えることもできませんでした。その苦い経験があったからこそ、今は質問を恐れず、疑問に感じたことは都度解決することを心がけています。そして、広い視点で物事を見るように意識する。

任せられた仕事は何のためにあるのか、それが何に貢献するのかを考えて取り組むことが大切だと感じています。こうすることで、一つの仕事から得られる学びや気づきが何倍にも増えると思います。

担い手シリーズ38

# アートの視点からアプローチする土木の可能性

岡本 結子 入省9年目（管理第二係長）  
国土交通省 九州地方整備局  
筑後川河川事務所 矢部川出張所



● 印象的な仕事

一番に思い出すのは、令和2年7月豪雨の災害復旧工事です。護岸工事の最終段階である端部の仕上げについて、現場を訪れた事務所の先輩から、改善の余地があると教えてもらいました。設計に問題はありませんが、創意工夫が足りず、地域住民の気持ちを考慮していなかったことに私は気づきませんでした。その後、設計を見直し護岸が完成。当初の計画よりも素晴らしい仕上がりとなりました。予算の制約がある中で、図面にこだわらず実際の現場やその場所を利用する人々についても考え、進めていくことが必要だと痛感しました。

● 今後の目標

多くの経験と幅広い知識を習得し、最適な判断を下せるスキルを身につけることが目標です。また、女性が建設業を身近に感じてもらえるように、環境整備に力を注ぎたいと思います。そのひとつとして、令和3年度に設立した「矢部川女性技術者の会」では、PICFA※とコラボし、さまざまな取り組みを行ってきました。アートと土木を結ぶことにより、より多くの人々に「土木技術者」の存在や活躍を知っていただけるのではないかと考えています。今後も土木の魅力を広くアピールし、この職業が多くの人に憧れられる存在となるよう、努力していきたいと思えます。



岡本 結子（おかもと ゆいこ）  
福岡県出身。福岡大学社会デザイン工学科卒業。平成27年4月国土交通省九州地方整備局入省

国土交通省 九州地方整備局  
筑後川河川事務所 矢部川出張所  
〒835-0025 福岡県みやま市瀬高町上庄470  
TEL. 0944-63-2520 FAX. 0944-63-2567  
<https://www.qsr.mlit.go.jp>

※PICFA：医療法人清明会障害福祉サービス事業所PICFA